

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1277600084	
法人名	医療法人社団寿光会	
事業所名	グループホームいきいきの家岬	
所在地	千葉県いすみ市岬町和泉330-1	
自己評価作成日	平成25年2月13日	評価結果市町村受理日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/12/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 日本ビジネスシステム	
所在地	千葉県市川市富浜3-8-8	
訪問調査日	平成25年2月28日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

海が近くにあり、すぐに海を見に行ける環境にあります。
 介護老人保健施設と隣接しており、そちらの3階が津波災害の避難所に設定されているので、ご利用者様やご家族の安心につながっていると思います。
 訪問診療、訪問看護も実施されており、医療面でも安心です。
 さらに、介護老人保健施設のリハビリ設備を利用できたり、催し物に参加することができ、多くの方と交流がもてます。
 職員全員、ご利用者様の個人の尊厳を守りながら、家庭的な雰囲気を重視した施設作りを目指しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「グループホームいきいきの家岬」は、「カモメ」「イルカ」の2ユニットがある平屋造りの施設である。各ユニットのリビングにはウッドデッキが設置されており、庭への出入りが自由で、気軽に外の空気に触れることが可能で、ユニット間の往来も気軽にできるような造りとなっている。介護老人保健施設が併設されており、日頃からレクリエーションや行事等で交流がある。また、同グループの施設との交流が盛んに行われており、生活の活性化が図られていると共に、サービスの切替がスムーズに出来る様連携を取り、入居者・家族の意向に即した柔軟なサービス提供に繋げている。同法人の介護老人保健施設の理学療法士から助言を得ながらリハビリにも取り組んでおり、身体能力の維持に向け、一人ひとりに合わせた支援を行い、入居者本位の生活が送れるよう取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらい 3. 家族の1/3くらい 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を玄関と各ユニットのリビングに掲げて目に入る様に毎日確認している。また、個人面談時などに職員と再確認している。	施設独自の基本理念を掲げており、理念を明文化し施設内に掲示している。会議・研修の実施や個人面談等で理念の周知・徹底を図り、理念に沿ったサービスの実践に向けた意識の統一に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議に地域の方々に参加していただいている。ボランティアの訪問や地域での行事の参加を心掛けている。	日頃から、友人の来訪や見学者の受け入れ等が行われていると共に、外出時には近隣住民とは気軽に挨拶を交わす等、日常的に交流が行われている。お祭り等の地域行事へは積極的に参加しており、地域との交流促進に努めている。また、ボランティアの受け入れ・施設行事への地域住民の招待等、交流活性化にも取り組んでいる。他に、運営推進会議への地域住民の参加の働きかけを行い、会議を通して施設の理解促進や協力体制の強化も目指している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議で参加者の方々に、認知症についてのお話しをしたり、理解、支援を呼びかけています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は市の助言を受けながら実施し、毎回貴重な意見をいただいている。	市職員・区長・地域住民・民生委員・他の施設職員・入居者・家族・職員等を構成員として、6ヶ月に1回、運営推進会議を開催している。会議では、施設の活動報告・意見交換等を行い、施設の理解促進に努めると共に、挙げた意見・要望はサービスの質の向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	電話連絡や市役所を訪問し、担当者に入所状況の報告も兼ねてパンフレットを置かせていただいている。	日頃より市に対しては報告や業務相談を行うと共に、運営推進会議時には市職員との意見交換・情報交換等を行っており、協力関係構築に向け取り組んでいる。他に、グループホーム連絡会を通じて提案や情報交換等が行われ、市と事業所同士が地域の問題解決に向けて協働体制強化を図っている。	

【千葉県】グループホームいきいきの家岬

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日中は玄関の施錠はせず、必要に応じてセンサーを活用している。また身体拘束に関する研修に積極的に参加し、職員全員が周知出来るように努めている。	身体拘束排除における行動指針やマニュアル等を整備し、施設内に掲示すると共に、内部・外部研修も実施されており、全職員が身体拘束排除における意義を理解している。入職時に行われる職員への行動指針の配布や個人面談時の再確認等、支援方法の周知や理解促進に努め、適切な支援の提供を行っている。また、玄関は施錠せず、センサーを活用し、声掛けや見守り等の工夫を行い、入居者の安全とその人らしい自由な生活を支援している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	一部の職員が虐待防止の研修に参加し、研修後は、他の職員にも周知出来るように、報告書の提出を行なっている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	市役所やグループホーム連絡会による研修に参加している。現在、成年後見人制度を利用している入居者様が入所中なので職員会議で情報の交換をし理解と活用に努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所申込みの際に、家庭訪問や施設見学を随時行ない、不安や疑問のないように十分な説明を心掛けている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に『ふくろう』のポストを置き、苦情を含めご意見をお願いしている。また、運営推進会議の案内の際にもご意見をお願いしている。苦情のあった時は報告書を作成し、速やかに改善できるよう努めている。	意見箱や相談窓口を設置すると共に、家族の面会時・電話連絡時・運営推進会議時等に意見・要望等を確認している。また、定期的に発行される広報を活用する等、コミュニケーションを取りながら信頼関係の構築に努め、より言い易い環境作りに取り組んでいる。挙げた意見・要望においては、会議等を通じて周知・検討を行い、運営に活かしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者への「通報ホットライン制度」がある。また、提案制度を設けており、職員が意見を出せる機会がある。	定期的に会議を開催し、職員からの意見・提案等を確認している。定期的に個人面談も行われており、職員の意見・思い等を確認している。法人代表者へ直接職員が意見や要望を提案できる体制が整備されており、法人全体で職場環境の整備に取り組んでいる。計画的に内部研修を行うと共に、外部研修参加の機会も確保されており、適切な人材育成に向け取り組んでいる。また、グループホーム連絡会の活動を通じて他の事業所との交流を図り、サービスの質の向上に活かしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	定期的に管理者と職員の個人面談の場を設けている。給与については、年に一度昇給の機会があり、介護福祉士や介護支援専門員の資格取得の際は手当を支給している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人からは積極的に研修参加を奨励されている。経験年数に応じた外部研修への参加の奨励、仕事上における上司及びリーダーによる指導を随時行なっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	隣接している介護老人保健施設での合同納涼祭、クリスマス会などに参加している。また、グループホーム連絡会への参加において施設訪問をしたり交流の機会を設けている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前に管理者をはじめとした職員が本人の居住地に訪問し、面談、調査をしている。施設の生活に早く慣れていただけるように、生活歴に合わせた支援を心掛けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	見学、相談を随時受け付け、ご家族の不安なことや要望を傾聴し、ご本人にとって適切なサービスを提供できるように心掛けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族の要望に迅速に対応できるように体験入所が可能。隣接している老人保健施設、同じグループの他施設、協力病院である岬病院などの紹介も行なっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	今までの生活を大切にし、出来ることは自分でやっていただき、入居者様と協力して家族活動をしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時に入居者様の様子を報告したり、ご家族の希望を聞くなど常にご本人へのサービス向上に努めている。また外出、外泊等ご家族の協力が可能な限り、多くの時間を共有していただけるよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族以外の方(ご親戚やご友人)などにもいつでも面会に来てくださるよう声をかけている。	契約時に入居者の生活歴・嗜好・趣味・特技等を確認している。希望に応じて行きつけの店等の馴染みある場所への個別外出支援を行っている。また、知人・友人の来訪や手紙・電話のやり取りも支援しており、馴染みの人との関係継続にも努めている。家族との外出・外泊は自由となっており、家族との関係継続に向けた支援を行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日々の生活の様子から利用者様同士の相性を把握し、トラブルのないように席替えや良い関りを持てるよう努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	協力病院への入院退所になるケースが多い。その場合は、病院訪問時には面会をし、状況を相談員に聞いたりしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常において職員と利用者様、また日々の生活の記録を確認し、ご本人の意向の把握に努めている。	契約時に本人家族から意向・生活歴・身体状況を聴取している。必要に応じて医師からの意見書や他サービスからの情報を収集し、より詳細な情報の把握に努めている。入居後は、家族との話し合い・日常生活での観察や会話・知人からの情報等で意向を確認し、項目別に整理・記録している。会議にて全職員で記録を活用しながら意見・情報交換を行い、周知・検討を行い、入居者の意向に沿ったサービスの提供に取り組んでいる。	

【千葉県】グループホームいきいきの家岬

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時に暮らしの情報(私の家族シート)をご家族に記入してもらっている。また、アセスメントのセンター方式を一部活用している。ご家族、知人の面会時に新たに入った情報を聞き、記録しておく。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者一人ひとりの生活パターンは暮らしのシートなどで把握するように努め、また、ちょっとした変化にも気がつけるようにバイタルチェックや様子観察をしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居者一人に職員一人の担当者を設け、ミーティングの際には担当者やリーダーを中心に意見を出し合い、ご本人にとってより良いサービスが提供できるよう努めている。	本人・家族の意向の確認を繰り返し行い、会議を通じて職員全員で情報交換や検討を行い、介護計画を作成している。定期的に介護計画の評価や目標達成状況の確認を行うと共に、必要に応じた見直しを実施しており、現状に即した介護計画の作成に取り組んでいる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	各入居者の日々の様子を個別介護記録に記入し、特記事項は日誌に、職員での相談事などは連絡ノートを活用し、情報の共有に努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人の体調やご家族の経済状況も含め、どのサービスが適切なかを常に視野に入れてサービスの提供を行なっている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のイベントや他施設の納涼祭などに参加している。定期的なボランティアの訪問を通じ、地域の方々と触れ合う機会を設けている。		

【千葉県】グループホームいきいきの家岬

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時にご希望のかかりつけ医を確認し、ご家族やご本人の希望により主治医を決め、ご家族の協力を得ながら受診する。希望が特でない場合は、協力病院による往診にて対応している。	希望のかかりつけ医への受診が可能となっており、希望に応じて、職員が通院の付き添い支援を行っている。また、定期的に協力病院医師による往診が実施されており、適切な受診支援が行われていると共に、緊急時・重度化における24時間対応等が行われており、医療支援や健康管理面での協力体制が構築されている。また、定期的に看護師の訪問もあり、適切な健康管理や相談対応が行われており、家族や職員の医療面・健康面に関する不安解消に繋がっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	隣接している介護老人保健施設から、週1回、看護師の訪問があり、入居者様の健康状態を観察している。また、緊急時には協力病院に相談し、指示を受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院後の面会を通して状態の把握に努め、ADL低下や認知機能の低下にならないよう、また、早期に退院できるよう努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	「終末期に関する希望」の書類を作成し、ご家族と話し合い、記入していただいている。長期入居者様には再相談も行なっている。	契約時に重度化や終末期における希望を確認すると共に、施設の方針・対応方法を説明し、了承を得ている。重度化・終末期においては、家族・医師・看護師等と相談を繰り返し行い、協力病院との連携が図りながら家族の意向に即した支援が行えるよう取り組んでいる。日頃から他の施設や医療機関とは、必要時にサービスの切り替えがスムーズに移行できるように協力体制を整えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	隣接している介護老人保健施設での消防署主催の救急講習に参加している。急変時のマニュアルを作成している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防火委員を中心に、定期的に防災避難訓練を実施。地元消防署にも協力を得て助言をいただいている。	非常災害時・緊急時におけるマニュアルの整備及び研修等が行われている。施設には火災報知器・通報器・消火器・スプリンクラー等が設置されており、火災対策がなされている。また、防火管理者を配置し、日々の安全確認を行うと共に、避難経路・備蓄品・非常食等の再確認も実施されており、非常災害時・緊急時に備えている。消防署立会いの下、年2回、地域住民も参加しての夜間想定を含めた消防避難訓練を実施している。隣接の介護老人保健施設は災害時の避難場所となっており、夜間の協力も得られている。また、地域住民や市等の関係機関とは日頃の交流や運営推進会議を通じて、非常災害時における地域との連携強化が図られている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員は、年数回接遇研修を受講し、接遇を重要視し対応するよう教育している。	プライバシー保護や接遇についてのマニュアル等が整備されていると共に、入職時や会議では尊厳厳守・接遇等の指導や重要性の確認等が行われている。全職員は一人ひとりに合わせた言葉掛けや介助方法に工夫を凝らし、日々のサービスの提供に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の希望を尊重した対応を心掛けている。会話の中でもご本人の意見を傾聴するよう心がけ、ご本人が納得のできる支援が出来るよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	可能な限り本人のペースで生活できるように、希望、体調を考慮しながら対応している。		

【千葉県】グループホームいきいきの家岬

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	不潔にならない範囲で、ご本人の希望をできるだけ傾聴している。また、定期的に近所の美容室の美容師の方が来所し、入居者様の希望を聞きながらカットしてくれている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の後片付けは、職員と入居者様が一緒に行なっている。入居時に好き嫌いを確認している。また、日々の食事の中でも気づいた点を記録し、情報を共有、嚥下状態に応じてお粥やキザミ、ミキサー食と対応している。	献立の作成と食材の購入は委託業者を利用しており、身体状況・栄養バランスに配慮した食事提供がなされている。また、手作りおやつ・誕生会・外食会では担当職員と入居者が献立作りから買い出しまでを行っており、食が楽しみとなるよう様々な取り組みが行われ、生活活性化に繋がっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日飲水量、食事チェックをし、記録している。必要に応じてお粥、キザミ、ミキサー、トロミ等で対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に個人に応じた口腔ケアの支援をしている。夜間は義歯を預かり、洗浄を行なっている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用し、適宜トイレ誘導、声掛けにより、少しでもオムツの使用が減るよう努めている。排泄パターンの見直し等、ミーティング等で随時検討している。	排泄チェック表を活用しながら一人ひとりの排泄パターンを把握し、適切な排泄支援を行っている。また、声掛け・トイレ誘導・夜間のポータブルトイレの活用等、一人ひとりの身体状況や精神面に配慮しながら排泄の自立支援に向け取り組んでいる。献立や体操の工夫・医師や看護師からの助言を基に、適切な排泄習慣の確保に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝のリハビリ体操、乳製品の摂取、下剤の調整等で対応している。また、水分摂取を促している。		

【千葉県】グループホームいきいきの家岬

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	本人の意思を尊重し、入浴日の選択は自由とするが、週2～3回の対応を基本としている。リフト浴など、能力に応じた適切な入浴支援を行なっている。	入浴においては入浴日は決まっているが、希望に応じて曜日や時間等の変更が可能となっており、柔軟な対応を行っている。また、必要に応じて、シャワー浴や清拭等を取り入れ、入居者の清潔保持にも努めている。希望や身体状況に応じ、カモメの棟のリフト浴槽を使用する事も可能となっており、安全で快適に入浴できるような環境が整備されている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	出来る限り昼夜逆転のないように日中の活動性を増やすように努め、眠剤になるべく頼らないよう心掛けている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者様一人ひとりの薬の説明書を共有スペースの食器棚に用意し、職員は随時閲覧可能にしている。服薬チェックを記録し、誤薬や服薬忘れのないように努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	各入居者様の趣味、趣向を考慮し、レクリエーションを提供している。また、入居時のアセスメントを参考にし、生活歴を把握した上で出来る範囲で家事参加をお願いしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	入居者様の希望に応じて、散歩や外出レクリエーションを提供している。また、家族との外出、外泊も可能となっている。	入居者の希望・天候・体調に応じて、散歩・買い物・ドライブ等の外出支援が行われている。また、入居者の希望や季節等を考慮し、外出行事を企画・実施しており、様々な戸外での楽しみを提供している。同グループの施設とはレクリエーションや行事への参加等の交流が行われており、入居者と職員との楽しみの共有が図られ、生活活性化に繋がっている。その他にも、ウッドデッキへの自由な出入りや敷地内のスペースを活用してのイベント等、入居者の思いに配慮した屋外での楽しみも支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現金については、ご本人、ご家族の意向を伺い、その状況に応じて対応している。		

【千葉県】グループホームいきいきの家岬

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望であれば、出来る限り電話でお話が出来るように支援している。また、手紙なども入居者様の希望で郵送している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花々や行事などに関する飾りつけをしている。湿度計、温度計の設置により、快適な空間になるよう努めている。	施設内は十分な介助スペースが確保されており、入居者の安全面に配慮された造りとなっている。共有スペースには、ソファ・テーブル・和室スペースが配置されており、入居者が思い思いにくつろぐ事が可能で、居心地の良い空間となっている。入居者の作品・季節の飾り付け・写真等、季節感を大切にした温かみある施設作りがなされている。他には、看板や目印の位置・色等を工夫しており、入居者の身体状況に応じた配慮がなされ、入居者の安心と安全な生活に繋がっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	畳コーナーや事務室前のソファや中庭のウッドデッキを活用している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際には、ご家族をお願いして出来る限り自宅で生活していた時の家具などを持ち込んでいただけるようお願いしている。	入居者・家族の要望に応じて馴染みの品々を持ち込む事が可能となっており、入居者が居心地良く生活できるよう配慮している。入居者一人ひとりの好みや生活スタイルに合わせ、畳・絨毯・布団・ポータブルトイレ等を使用する事が可能となっており、その人らしい居室作りがなされている。各居室にはエアコンが設置されており、適切な空調管理がなされていると共に、鍵と収納スペースが設置され、入居者のプライバシーが確保されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物は完全バリアフリーとなっており、手すりが各所に設置されている。トイレ、浴室、居室なども看板や表札などを使用し、見やすい位置に設置している。		